

数学

東京医科歯科大学 (前期) 医学部医学科 1/1

<全体分析>

試験時間	90分	解答問題数	3題
------	-----	-------	----

解答形式

全問記述式

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・**変化なし**・やや増加・増加)

難易 (易化・**やや易化**・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴や昨年との変更点

誘導が多い出題形式なので、うまくその誘導に乗ることが大切である。

その他トピックス

場合の数・確率の問題は頻出。2019年度から5年連続で出題されている。他分野との融合問題となることも多い。

<大問分析>

問題番号	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
1	場合の数	数学 A	2点を結ぶ折れ線の個数を求める問題。 (4)は、両端点の x 座標の差が 0 となるときを分けて数えるとよい。	やや難
2	極限 空間ベクトル 数列	数学Ⅲ 数学 B 数学 B	xyz 空間の点列の座標に関する問題。 (3)は、(2)の結果を用いて、まず偶数番目の項からなる部分数列について考えるとよい。	標準
3	積分法 極限	数学Ⅲ 数学Ⅲ	定積分で表された条件を満たす関数についての問題。 (1)は定積分の計算を行う、(2)は連立方程式を解く、という素朴な方法で解決するが、限られた時間内でこれらを迅速に行うことが要求される。	やや易

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

発想力・論証力が要求される問題が多く、例年計算量も多いので、基礎を固めたら過去問などを用いて答案作成の訓練をしておくこと。

大問の完答は困難な場合もあるが、誘導として出題されている小問は基本問題ばかりなので、それらを確実に解くことが合格の必要条件である。

なお、頻出分野である場合の数・確率・整数・空間図形・2次曲線・微分・積分は特に学習しておくことよい。